

「岳陽」と共に

第 28 号

発行日 2024. 5. 30
編集・発行 井上講四／堂本彰夫
※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail: gakyuou17@outlook.jp

○梅雨の「走り」と「入り」！何と柔軟な対応かだが…

沖縄は、昨日(21日)、ついに「梅雨入り」となった！例年より11日遅いということであるが、しかし、今年は、先月末(GW前)に、何とも紛らわしい？「梅雨の走り」ということが言われていたので、何か？「梅雨入り」ということが、あまり実感されない！確かに、今日(22日)も、間断なく雨が降っているが、そう思えるのである？！

ところで、日本には、4つの梅雨(菜種梅雨・梅雨・すずき梅雨・山茶花梅雨)があるということだが、ここでは、通常の「梅雨」について、少し調べたことがあるので、それを披歴したい。実は、梅雨入り・梅雨明け・梅雨寒・空梅雨等、関係する言葉が多々あるが、そこには幾つかの区分けがあるらしい！

例えば、梅雨・梅雨入り・梅雨明けは、「予報用語」。梅雨の走り・梅雨の中休み・空梅雨・梅雨の戻りは、「解説用語」。梅雨のような天候・入梅・梅雨寒等は、「使用を控える用語」とかであるが、考えてみると、何と柔軟な対応なのだろうかとも思ってしまう(ただし、その基準の意味は難しらしいが?)!!
ちなみに、「梅雨の走り」は、梅雨前線が現れていなくても使うことがあり、判断が難しく、時期も、「梅雨」よりは客観性に乏しいという?!すなわち、「梅雨の走り」の判断は、主観による部分もあり、気象庁でも、解説用語としては使えるけれども、予報用語としては使っていないということである！でも、庶民には、「梅雨入り」と思わせてしまう?!

○大雨／長雨、台風、そして再びコロナの増大?

ということ、今年もまた、真正銘の梅雨が、沖縄でも始まった!昨日(23日)は、少し晴れ間も見えたが(我が岳陽舎の近辺だけかもしれないが?)、今日は、朝からずっと、かなりの雨模様となっている!宮古島の雨量が気になるが、不吉なことには?フイリピン東海上で、今年初めての台風が発生する模様でもある!

ちなみに、その移動予想では、沖縄本島への直撃はなさそうであるが、この本格的な梅雨(大雨／長雨)と重ねれば、かなりの被害が出るかもしれない?!梅雨の大雨／長雨や台風による降雨は、ここ沖縄にあつては是非とも必要なものであるが(特に今年は、ここまで水不足の懸念があった)、度が過ぎると、それこそ大変な被害を被ってしまうわけである(沖縄の悲哀と言えば、それまでだが?)!

ところで、この、いつもの憂鬱?に関わって、私には、もう一つ気掛かりなことがある!それは、折角最近、馴染みの卒業生を始め、友人・知人の久々の来訪が多くなりつつあるが(昨日も2人あった)、こうした天候のいざ知らずによって、それが妨げられるということである!しかも、かの新型コロナ感染の数も、いつのまにか増えてきている(また、あまり騒がれていないが?)!絶対数はともかく、その比率は、何と再び全国一位、しかも断トツのようである!
とにかく、そういうことになれば、まさに二重の憂鬱となる?わけであるが、楽しいことも、もちろんある!否、自ら積極的に、そういうことを創り出さなければ!そして、可能な限りの終活?を満喫しなければ…!

○人の「生」と、その「承継」に想つ?

そんな中、先日、ついに?ある手続きを済ませてきた。まさに「終活」の究極(最後のそれ?)となるが、いずれ来る、我が葬送の場所(墓所)を決定してきたのである(もちろん我が奥さんと一緒に!)!しかも、詳しくは書けないが、書いてはいけない?、墓石なしの共同埋葬という形である!いろんな選択肢もあるが、我々にとつては、それが一番の良策であり、納得の結論でもあるということである!ちなみに、我々と同じような決定をしている人も多く、ゆくゆくは、彼らは、隣人、否、同居人ということになるわけでもある!面白いものである!

ということで、「墓(石)ない話」とはなったが(でも、これは決して「儂い話」ではない!笑?)、それとは別に、そして、気重な話にはしたくないが、ここでは、人の「生」と、その「承継」について、もう少しだけ語っておきたい!と言うのも、考えてみれば、ある意味当然であるが、人の「生」というものは、ある誰かの「生」を受け継いだものであり、また、誰かの「生」に受け継がれるものでもある!事情により、その直接的な「承継」がなされなかったものもあるが(これからもそうであり、それは、さらに増える?)、その連綿と続く「承継」の姿・形が、かの墓所であり、そこに我々の歴史が刻まれるわけでもある?!

しかし、問題は、そこにある、実際の「承継」の姿・形の存続であり、それに対する、それぞれの、「今を生きる」人々の受け止め方である!自国の命運や自家(家系)の行く末をどう考えるかということでもあるが、自(詐?)称古代史研究家として書き加えたいことは、例の「古墳」(墳丘墓古む)の被葬者と、それを作り(生前に作られる場合もあるが?)、祀り、祈りを捧げた人達との関係や思いも、実は同じであったということである?!!
要は、そこには、ある人の「生」と、それが成した人間関係(血統や勢力)とその意味(勢威や財)が誇示されているということであるが、そこに、その人の「生」と、その「承継」の価値が示されているということでもある!ただし、墓碑がないこともあり、今となっては、その真相は不明であり、結果的には、かなりの徒花ともなっている?!何とも、複雑ではある? (井上)

○何とも複雑な心境ではある！大学の光と影!!

過日(24日)、NHKの「検証 大学改革 光と影」という番組(「ザ・ライブ」)を観た！今更？こういうテーマの番組を観ても仕方がない(ある意味腹立たしい)と、多少冷めた目で見始めていたが、途中から、ある人物の名前まで出て来たので(ある時期、R大学で一績だった！顔も出ていたので、すぐに分かった!)、別な意味で興味を沸き、最後まで見届けてしまった!

例によって、その番組案内をネットで調べてみたが、それによると、「NHKに届いたあるメール。送り主は地方公立大学の関係者。学部の新設が進む一方、5年間で半数以上の教員が大学を辞めたという。改革の名のもとに、何が起きているのか。国公立大学の法人化が始まって20年。国によるガバナンス改革は大学にどのような影響をもたらしたのか。単科大学だった下関市立大学。少子化や大学競争が激しくなる中、学部の新設を進めるなど総合大学化を掲げ志願倍率が上昇したという。一方、5年間で半数以上の教員が大学を辞めた。NHKでは退職者を対象にアンケートを実施。さらに学長や元学長などキーマンを取材。一体何が起きているのか。最高学府の存在意義を再考する。」とあった。

もちろん、ここでは、詳しいコメント(感想)をするつもりはない(スペースもない!)が、あの時のことを、少しだけ思い起こしてはいる(具体的に「国立大学の再定義の時」とにかく、大学は変わった！否、変わらせられた!!)そして、最早、古き良き時代の「学問の自由」や「大学の自治」は完全に消失した!!ただし、憤慨や悲嘆だけでは、新たな姿・形は築けない!!これだけは、はっきりしている!ならば、どうするか?答えは、実はある!!

なお、この番組は、「九州・沖縄の地元の話から、暮らし、経済、自然、文化:先の見えない混とんの時代だからこそ、確かな営み(ライブ)を深く見つめなおす。」とある。ある意味、ここにも、同根の答えがある!!

○梅雨時の鳥は、大変であろう?だが、一方の私も!!

話は、がらりと変わるが、梅雨に入って、先日二階のベランダに、羽を濡らした鳥が(名前が、流石に分らない!)、顔を見せた!と言っても、これまでは、知らない間に、備え付けの木製テーブルには、よく白い〇〇が付いているので、ひよっとしたら、その鳥なのかもしれない!!

だが、それはともかく、その時のそれは、多分、許容以上の雨粒を受け、いわゆる雨宿りのここに来たものだと思われるが、気のせいかな?私と顔を合わせても、すぐには逃げなかつたのである!!羽振るいをして、濡れを落とすのが先決ということかと思われるが、彼らは、宿命とは言え、本当に大変なのだ、つくづく思った次第である!

ということ、これ以上、彼らが何を考えているのか知る由もないが、一方で、彼らには、こんな私は、どのように見えているのであろうか?まさか、日中はパソコン、夜はテレビ、そしてまた、深夜はパソコンに興じる!そんな生き物と映っているであろうか!!だとしたら、これもまた大変である!

〈短歌に託して本格的な梅雨を迎えて!〉

・梅雨の「走り」と「入り」!

柔軟な対応とは言えるが 庶民には同じ!!

・大雨/長雨 台風 そして再びコロナ?

変わらぬ憂鬱だが 楽しさあれば!!

・人の「生」と「承継」

その意味 あくまでも 今を生きる側にあり!!

・古き良き時代の 自由や自治?

それだと 誰かが苦勞して得たもの!

・お互い大変 梅雨時の鳥と私!

だが、それもまた 今を生きるということ!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ⑧

○古代日向国の実像を求めて―その4―

ということ、ここでは、南部九州(日向)の実体?について、改めて追りたいのであるが、もちろん、それに近づくための原材料を、私自身は持たない!ただ、以前から気になっていたのは、いわゆる「魏志倭人伝」に記されている「投馬国」のことである!読みや位置関係も、またまた定かではないが、その国が「トウマツマ?国」であれば、それこそ南部九州(日向)の中心地ということになる(現在の西都原丘陵の近く)。その「都?」には「霧社」があり、かの「木花咲耶姫」が祀られている!!

また、その国の「長官」は「彌彌(弥弥)ミミ」。「副官」は「彌彌那利(弥弥那利)ミナリ」。「谷職名」という呼ばれていた。奴国の隣の不弥国から南へ水行20日の位置で、5万余戸の人家があったという。ちなみに、近くの日向市には、「美々津/耳川河口」という場所もある(しかも、そこには「神武東征」に関わる伝承・行事があるという!)。「ミミ」という名称に注目すれば、神武の、日向での長子「多研耳」、近畿大和での長子「神八井耳」、次子「神津名耳(神津天鳥)」、また、阿蘇や高千穂に伝わる「彦八井耳」等の名前を見れば、「ミミ/耳」が、南部九州(日向)に関わる名称であることが分かる!ちなみに、丹後にいたとされる土蜘蛛の「陸耳御笠(くがみのみかさ)」にも、何故か思えば馳せるところでもある!!

いずれにしても、「耳/ミミ」という名前が、南部九州(日向)とつながることだけは確かなようであり、古代日向国が、我が国の古代史(倭国史)解明の大きな鍵を握っていることは間違いない!!ただし、問題は、改めてかの「投馬国」が、ここで言う南部九州(日向)の地にあった国なのかどうかは、今のところ何とも言えないということである!「邪馬台国連合」の強大な一國であったことは、その人口規模からも明確であるが、筑紫平野にあったと考えられる「邪馬台国」とは、一体どういう関係なのか?そして、そもそも、それらの位置関係に齟齬はないのか?そういうことが、新たな課題となるわけである!(つづく)

〈編集後記〉とうとう、沖縄も、本場の梅雨入りとなった!だが、事前に「走り」があつたので、さほど憂鬱ではない!!しかも、晴れ間もある!ただ、これからの不安ではある?いずれにしても、季節はあり、そして巡る!楽しいことも、苦しいことも(時には哀しいことも)、その繰り返しの中にある!! (井上/堂本)